

第16回 子どものいのちを考える講演会

すべての赤ちゃんを温かく迎えるまちづくりへ

わたし生まれていいの、 いけないの？

～出生前診断が問いかけるもの～



講演：玉井邦夫 氏

(日本ダウン症協会理事長・大正大学教授)

なぜトリソミー異常のうち13番と18番は語られず、21番のダウン症だけが出生前診断の対象となって、産みたくない、社会にいないといわれるのか。しかし、自分達を振り返った時に、ダウン症の子が生まれたから人生を後悔して、健常な子が生まれたから自分の人生は幸福だったとはきっと思わないだろう。私達なりに考えた結果、ダウン症の子ども達が出生前診断の対象とされる理由の一つだけある。それはあの子達が何十年という人生を立派に生きるからです。

「生命尊重ニュース」講演記録より

プロフィール

1959年千葉県生まれ。1983年東北大学大学院教育学研究科修士課程修了(心身障害学)。1983年情緒障害児短期治療施設小松島子どもの家セラピスト。1989年山梨大学教育人間科学部障害児教育講座准教授。2008年大正大学人間学部臨床心理学科教授。
主な著書に『家庭の中の子ども 学校の中の子ども』(岩波書店)『子どもの虐待を考える』(講談社現代新書)『ダウン症ハンドブック』(共著 日本文化科学社)他がある。

2/15日

14:00～16:00
(受付 13:30～)

**会場 / 松江市総合福祉センター
4階ホール**

松江市千鳥町70番地 TEL(0852)24-1643

無料駐車場(“なにわー水”東隣り)

参加チケット/一般・学生500円(高校生以下無料)

※託児あります。(1才～・定員10名) メ切2月10日
(お申し込みは裏面をご利用ください)

主催：いのちの始まりを大切にする会 (連絡・問合せ先 TEL090-2006-3278 村尾)

協力：生命尊重センター・NPO法人円ブリオ基金センター・出雲いのちを考える懇談会

後援：青少年育成島根県民会議・松江市・松江市教育委員会・松江市社会福祉協議会・松江市ボランティア連絡協議会

公益社団法人島根県看護協会・一般社団法人島根県助産師会・山陰中央新報社・読売新聞松江支局・朝日新聞松江総局

毎日新聞松江支局・産経新聞松江支局・島根日日新聞社・NHK松江放送局・日本海テレビ・BSS山陰放送・山陰中央テレビ

エフエム山陰・山陰ケーブルビジョン

※この事業は、松江市篤志寄付金の助成金を活用して開催しています。

赤ちゃんを温かく喜んで迎えるために



Smile まちづくり

＊妊娠かっとう
無料電話相談

NPO法人円ブリオ基金センターでは、産みたいけれどひとりで悩んでいる妊婦さんの相談活動と経済的な支援活動をおこなっています。思いがけない妊娠！？いのちに気づいた時、まずはご相談ください。

妊娠 SOS ほっとライン  **0120-70-8852** は は こ に
火曜・木曜 10:00 ~ 16:00

NPO 法人円ブリオ基金センター【ホームページ】<http://homepage2.nifty.com/embryo>
東京都千代田区五番町 2-15 第一星光ビル 2F TEL&FAX 03-3239-0322

会では、講演会の開催とともに一口1円、「円ブリオ基金」の募金活動・普及をしています。
出産に悩んだり、困難な状況にある人の相談や支援に役立っています。
これまで全国で461人、島根では3人の赤ちゃん誕生を応援しました。
牛乳パックでつくる基金箱とポスター設置のご協力をお願いします。

《連絡先》いのちの始まりを大切にする会
TEL090-2006-3278

エンブリオとは、
妊娠8週までの胎児をいいます。
あなたもぜひ赤ちゃん
の応援団に！

参加申込みカード FAX 送信先 0852-54-0726

お名前			チケット数	枚
ご連絡先	電話・FAX() —			
託児の 申込み	保護者名	年齢	男・女	
	お子様お名前	歳		

※個人情報の取り扱いには責任を持って管理し、目的外の使用はいたしません。